

企業DXを推進する指標の在り方に関する検討会

第5回 事務局説明資料

2025年6月

経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課

目次

1. 第4回検討会における各論点に関する議論の振り返り
2. 第4回検討会における合意内容の確認
3. 第5回検討会における論点
4. 今後のスケジュール

1. 第4回検討会における各論点に関する議論の 振り返り

第4回検討会における各論点に対する議論の振り返り（1/2）

論点①-A： 指標の提出手段 をExcelとする か、Webフォー ムとするか

- 慣れ親しんだ Excel で運用しなければならないならやむを得ないが、ベンチマークレポートへの反映等、将来のデータ活用を見据え、数値化・データ化しやすいWebフォームに移行すべき。
- Webフォームで、各部門が回答できるような形式にし、各部門の回答をデータとして取れると良いのではないかと。大企業がExcelの方が回答しやすいということであれば致し方ないが、回答はWebフォームで、AIで各部門の回答を統合できる機能があればよいのではないかと。
- 実装面で制約が出てきた場合にはその限りではないが、Webフォームと同じ形式のExcelシートをダウンロードできるようにし、今回の指標の提出方法は最初からWebフォームで実装することでよいのではないかと。

論点①-B： 記述の項目を設 けるか

- 記述の項目は任意で設けることで良い。
- 自社として判断基準や悩んだ点を記録として残せるようにするなど、利活用の面から回答履歴が残せるような形でできることが望ましい。

論点①-C： 企業の3年後の 目標値を入れる 仕様とするか

- 具体的にレベル3とレベル4の違いをきちんと認識し、3年後のビジョンを想像するディスカッションが重要であるため、目標値を入れる仕様は残しておくことが望ましい。
- 現在の分析レポートでも、先進企業と先進企業以外の目標の差を出しており、将来の目標値を議論してもらうという意図で入れているため、将来の目標値と現在地をセットでの議論を促すために、目標値の設定はあったほうが良い。
- 企業が事業目標や事業計画を立てる際には、一定の目標値を設定するものであるため、目標値の記入は前提とするのが良いのではないかと。
- 目標値の設定は書きにくいという場合も想定できるため、任意とすることが良い。

第4回検討会における各論点に対する議論の振り返り（2/2）

論点②： 具体的な成熟度レベル の考え方について

- レベル3とレベル4の違いとして、レベル4は各部門から全社戦略に矢印が伸びているのがポイント。全社的に一つの大きな組織として、各部門の主要なキーマンが経営目線を持って全社戦略に整合して、フィードバックも行いながら有機的に推進していくのがレベル4。
- レベル3は各部門で実施していることをホチキス留めしているようなレベル感のイメージ。レベル4は、ただ全社戦略でDXをやりたいということではなく、DXでもって経営として何を達成するのかということが明確に各部門に浸透していて、各部門がその大きな経営目標を達成するために具体的にアクションしているという状況であると考え。
- レベル4において、PDCAが全社的に回っているかどうか「持続的」という意味合いかもしれないが、レベル3とレベル4の違いを明確化するため、「持続的」という表現は再検討すべき。
- レベル4は「持続的」ということが当たり前に行っているレベルではないか。「持続的」というキーワードはあっても良いと思うが、当たり前のように持続的に前年度の状況を勘案し、各部門で課題を考え、全体に統合しながら進められているという意味合いではないか。
- レベル5は、産学官含めた多様なステークホルダーの中でリーダーシップをとっている企業であるため、「ステークホルダー」という表現を入れるのがよい。
- レベル5において、「社会課題解決」というと、受け手の誤解を招くため、個社の取り組みを超えて社会価値を創出する業界のリーダーやモデル的な存在であるという表現を入れていくのがよい。

2. 第4回検討会における合意内容の確認

第4回検討会における合意内容の確認

- DX推進指標の改訂において、第4回検討会を踏まえて、下記の方方向性で合意したとの理解である。

システム構築に伴う各論点について	指標の提出手段	- 実装面で制約が出てきた場合にはその限りではないが、Webフォームと同じ形式のExcelシートをダウンロードできるようにし、指標の提出手段をWebフォームで実装する方向で調整すること。 - 今後入力結果がベンチマークレポートに即座に反映できるようにするなど、データ利活用の観点についても検討すること。
	記述の項目	- 成熟度レベルの判断の基準としてエビデンスを残す観点から、任意で記述の記載を求める欄を設けること。 - 加えて、記述回答の履歴が残せるなど、利活用の面でも検討していくこと。
	企業の3年後の目標値	社内の議論を促す目的で、任意で目標値を設定させる仕様とすること。

（参考）第3回検討会における合意内容の確認

- DX推進指標の改訂において、第3回検討会を踏まえて、下記の方方向性で合意したとの理解であるため、本日は下記を前提とした上で議論を進めて頂きたい。

具体的な成熟度 レベルの考え方

- レベル0からレベル5の段階で設定すること。
- **レベル0からレベル4は個社内の取組として、レベル5は、個社内の取組ができている前提で、個社の枠を超えた取組としてそれぞれ設定をすること。**
- **レベル5については、社会価値を創出していることや業界の中でも先進的な取組を行っていることを評価する表現とすること。**

具体的なDX推 進指標（仮）の 立て方

- レベル5は、個社の枠を超えて業界を大きく変えるイノベーションを起こしている取組を評価するものであり、**各設問におけるレベル5の記載ぶりは統一的なものにすること。**
- 連続性のある「望ましい方向性」の記載については、設問を分けず、一つの設問とすること。
- 「望ましい方向性」に記載の内容は（一部例外はあるものの）基本的にはレベル4相当であるため、**設問は抽象的な記載としつつ、各レベルの段階の記載で望ましい方向性へのステップを記載すること。**

（参考）第2回検討会における合意内容の確認

- DX推進指標の改訂において、第2回検討会を踏まえて、下記の方方向性で合意したとの理解であるため、本日は下記を前提とした上で議論を進めて頂きたい。

設問の設定方法

- 案2（デジタルガバナンス・コードの内容をブレイクダウンした形で設問を設定）の方方向性で設問を設定していくことで合意
- 一方で、重複感のある問題はまとめる、設問数は多くならないようにする、などの工夫は今後必要

設問の成熟度レベル（具体的なイメージ含む）

- **（1）基本的事項を基にした設問（DX認定レベル）**については、内容をブレイクダウン（論点①で決めた通り）したそれぞれの設問について○×にて回答する形式とし、**（2）望ましい方方向性に関する設問**については、**成熟度レベルを適用した設問**とする。
- **具体的な成熟度レベルは、現行のDX推進指標におけるレベル0～レベル5の考え方を適用しつつ、レベル5については多くの企業から使いづらい、との声もあるため、「自社としてブランディングが確立できる取組か」「発展的な取組をしているか」など、望ましい方方向性より先の取組を表す表現とする**

定量指標の有無

- **定量指標は設定。**具体的な内容については今後検討。

（参考）第1回検討会における合意内容の確認

- DX推進指標の改訂において、第1回検討会を踏まえて、下記の方方向性で合意したとの理解であるため、本日は下記を前提とした上で議論を進めて頂きたい。

全体の方向性		➤ 指標は、 DX推進施策全体の政策の連続性も鑑みて検討を進めていくこと 。そのために、政策の連続性から逸脱するものにはしないこと。
総論	指標を活用する目的	➤ 指標は、①企業に気づきを与えること、及び②企業が抱える問題を深く知ること、をそれぞれ目的として改訂を進めること。 ➤ その上で、政策の連続性も鑑みて、①DX認定を目指す企業、及び②より先進的なDXの取組を目指す企業（DX銘柄・DXセレクションを目指す企業）をターゲットとしていくこと。
	指針の方針	➤ 指標の内容は、DX推進施策の考えとして共通的な デジタルガバナンス・コードに沿ったもの にしていくこと。
	指針の構成	➤ 指標の構成は、 企業規模では分類しないこと 。

3. 第5回検討会における論点

論点①：具体的な成熟度レベルの考え方について

- 検討の前提
- レベル0からレベル5の段階で設定すること。
 - レベル0からレベル4は個社内の取組として、レベル5は、個社内の取組ができている前提で、個社の枠を超えた取組としてそれぞれ設定をすること。
 - レベル5については、社会価値を創出していることや業界の中でも先進的な取組を行っていることを評価する表現とすること。

事務局案						企業の枠を超えた取組
成熟度	企業価値の向上を目的とした個社のDXの取組					レベル5
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	
考え方	未着手	一部の部門での散発的実施	全社戦略に基づく一部の部門での実施	全社戦略に基づく各部門での実施	全社戦略に基づく持続的・見直し・部門横断的な実施	個社の取組を超え、社会価値を創出する水準での実施
	➤ 経営者は無関心か、関心があっても具体的な取組に至っていない	➤ 全社戦略が明確でない中、一部の部門での試行・実施にとどまっている	➤ 全社戦略は存在しているものの、各部門の取組をまとめたものになっているとともに、取組は一部の部門にとどまっている	➤ 全社戦略は存在しているものの、各部門の取組をまとめたものになっている ➤ 取組は各部門で実施されている	➤ 全社戦略が明確で各部門に浸透しており、不断の見直しを図りながら、各部門で経営目標を達成するための取組が実施され、企業文化として根付いている（「望ましい方向性」のレベル）	➤ 個社の取組において、レベル4に達している状態 ➤ その上で、多様なステークホルダーを巻き込んだDX推進や個社の取組を超えて社会価値の創出など、リーダーシップを発揮し、業界のモデル的な水準で取組が実施されている

（参考） 現行のDX推進指標における成熟度レベルの考え方

- 現行のDX推進指標においては、未着手（レベル0）からグローバル市場におけるデジタル企業（レベル5）まで6段階に分けて成熟度レベルが設定されている。

現行のDX推進指標の成熟度レベル及び特性

レベル0 未着手	➤ 経営者は無関心か、関心があっても具体的な取組に至っていない
レベル1 一部での散発的实施	➤ 全社戦略が明確でない中、部門単位での試行・実施にとどまっている
レベル2 一部での戦略的实施	➤ 全社戦略に基づく一部の部門での推進
レベル3 全社戦略に基づく部門横断的推進	➤ 全社的な取組となっていることが望ましいが、必ずしも全社で画一的な仕組みとすることを指しているわけではなく、仕組みが明確化され部門横断的に実践されていることを指す
レベル4 全社戦略に基づく持続的实施	➤ 定量的な指標などによる持続的な実施 ➤ 持続的な実施には、同じ組織、やり方を定着させていくということ以外に、判断が誤っていた場合に積極的に組織、やり方を変えることで、継続的に改善していくことも含まれる
レベル5 グローバル市場におけるデジタル企業	➤ デジタル企業として、グローバル競争を勝ち抜くことのできるレベル ➤ レベル4における特性を満たした上で、グローバル市場でも存在感を発揮し、競争上の優位性を確立している

論点②：DX推進指標（仮）の具体的な設問について

**具体的なDX推進指標（仮）の項目に言及しているため、
非公開**

4. 今後のスケジュール

今後の検討スケジュール（案）

検討会日程	アジェンダ
第1回 2025年1月16日	➤ DX推進指標の振り返りと現状の活用状況の共有、DX推進指標に係る課題と論点の提示及び総論（指標を活用する目的、指標の方針・構成）に関する議論
第2回 2025年3月28日	➤ 総論に関する議論を踏まえ、指標の内容について議論
第3回 2025年4月24日	➤ 第2回までの議論を踏まえ、成熟度レベルの具体的な考え方及び具体的な指標の中身の作成方法について議論
第4回 2025年5月23日	➤ システム構築に伴う各論点、具体的な成熟度レベルの考え方及びDX推進指標（仮）の具体的な設問（「1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定」）について議論
第5回 2025年6月6日 (本日)	➤ DX推進指標（仮）の具体的な設問（「2. DX戦略の策定」、「3-1. 組織づくり」、「3-2. デジタル人材の育成・確保」及び「5. ステークホルダーとの対話」）について議論
第6回 2025年6月16日	➤ DX推進指標（仮）の具体的な設問（「3-3. ITシステム・サイバーセキュリティ」及び「4. 成果指標の設定・DX戦略の見直し」）について議論
第7回 2025年6月24日	➤ 定性指標の全体確認、定量指標に関する議論及び指標の認知及び活用等について議論